

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	それいゆ児童発達支援センター		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 5日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34名	(回答者数) 16枚
○従業者評価実施期間	2026年 2月16日		～ 2026年 2月 19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・利用者の特性を理解し、専門性のある支援を提供している	・アセスメントを適切に行い、ひとりひとりの利用者の特性に合わせて学びやすい環境を整え、視覚的な手立てを使用した支援に取り組んでいる	・引き続き、ひとりひとりに合った支援が提供できるように努めていく
2	・研修の機会を設け職員の質の向上を図っている	・毎月職員研修を実施し、専門的な支援の方法などを学んでいる ・外部コンサルテーションを実施し、専門家からの助言を受けている	・それぞれの職員が希望する研修に参加できるように周知を行ったり、業務の調整をしていく
3	・家族支援に積極的に取り組んでいる	・年に3回程度、児童発達支援と放課後等デイサービスをご利用の保護者合同での交流会を実施しており、就学に向けての情報交換や相談がしやすいようにしている ・日々の送迎の際に必ず保護者とお話する機会を設けて情報共有に努めている ・ペアレントトレーニングを開催しており、家庭での関わり方の助言を行い、実践していただき、振り返りなどを行っている	・より多くの方が保護者会やペアレントトレーニングに参加しやすいように実施曜日の調整をしていく

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・避難訓練の実施の周知が行き届いていない	・すべてのクラスで避難訓練を行い、連絡帳または直接保護者へ報告を行ったが、年度途中で利用が始まったり、当日欠席される場合もあるので避難訓練が実施できていない利用者もいる	・避難訓練の実施日の確認を行い、事前に保護者へ伝える ・各クラスの避難訓練の時期を検討し、全ての利用者が経験できるようにする
2	・地域との交流が少ない	・利用者の特性上、地域との交流スキルを獲得する勉強を優先していることと、少人数の中での実践を優先している	・毎日利用クラスの遠足の際は、これまで学んだスキルを実践できる機会を設ける
3			